

日本語による書記言語コミュニケーションと その教育・学習支援の展望

— 学習者作文研究の成果共有から教育開発の新たな可能性を探る —

講演 1 :

作文研究から評価研究、そして教育・学習支援へ

伊集院 郁子

東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授

講演 2 :

日本語の書記言語コミュニケーションの実態と展望： 母語話者と学習者の句読点・括弧使用の共通性と差異から考える

岩崎 拓也

筑波大学人文社会系 助教

全 体 討 論

司会：中俣 尚己

国際機構国際教育交流センター 准教授



←お申し込みは
こちらから
(2/13ㄨ切)

大阪大学国際機構国際教育交流センター

CIEE Center for
International
Education and
Exchange
<https://ciee.osaka-u.ac.jp/>

日時:2026年2月17日(火)

13時20分～16時45分

(受付 13時00分～)

場所:大阪大学吹田キャンパス
コンベンションセンター会議室1

日本語による書記言語コミュニケーションとその教育・学習支援の展望
ー学習者作文研究の成果共有から教育開発の新たな可能性を探るー

日時：2026 年 2 月 17 日（火）13：20～16：45（受付 13:00）

場所：大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター会議室 1

主催：大阪大学国際機構国際教育交流センター

---- プログラム ----

総合司会 国際機構国際教育交流センター 特任講師 藤原 京佳

13：20～13：25 開会の挨拶 国際機構長 教授 有川 友子

13：25～13：30 趣旨説明 国際機構国際教育交流センター 教授 村岡 貴子

13：30～14：30

講演 1 作文研究から評価研究、そして教育・学習支援へ

東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授 伊集院 郁子

14：30～15：30

講演 2 日本語の書記言語コミュニケーションの実態と展望：

母語話者と学習者の句読点・括弧使用の共通性と差異から考える

筑波大学人文社会系 助教 岩崎 拓也

15：30～15：50 休憩

15：50～16：40 全体討論 司会 国際機構国際教育交流センター 准教授 中俣 尚己

東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授 伊集院 郁子

筑波大学人文社会系 助教 岩崎 拓也

16：40～16：45 閉会の挨拶 国際機構国際教育交流センター長 教授 義永 美央子

日本語による書記言語コミュニケーションとその教育・学習支援の展望

ー学習者作文研究の成果共有から教育開発の新たな可能性を探るー

趣旨説明

現在、私たちは、多種多様なメディアを活用し、時空間を超えて多くの未知の人たちも含めたコミュニケーションや交流が、迅速に、かつ容易となった世界に生きています。このことは、古くから続いてきた対面でのコミュニケーション以外に、多くのソーシャルメディアを活用したもの、AI に支援を得て他者で行うもの、さらには、AI そのものと自身とで行うものまで、他者との関係性やメディア・リソースの活用方法が実に多様になっていることを示します。そのような多様なコミュニケーションにおいては、すでに久しく「打ち言葉」を中心とした文字を媒体とする書記言語コミュニケーションの場面が増え、そのあり方も、世代やコミュニケーションの関与者、その現場の状況によって著しく異なるケースがあるようにも観察されます。

上記のように、現代社会で変貌を続ける書記言語コミュニケーションの状況は、言語教育の現場や関連研究の内容・方法にも少なからず影響を及ぼしています。言語教育の現場で扱う内容、その教育・学習支援の方法、および学習者・教員・支援者の言語教育に対するビリーフも、それぞれ、目まぐるしい変化への対応を迫られていることでしょう。また、実際に、書記言語コミュニケーションに関する研究方法も、多様なツール・リソースを活用して行われており、そこに関わる研究者のビリーフも、定量的手法・定性的手法を問わず、一層多様化しているものと推測されます。

本協議会では、上記のような現状認識を背景とし、書記言語コミュニケーションを大きなテーマとします。具体的には、学習者作文の研究と教育実践を蓄積されてきた講演者 2 名をお招きして、これまでのご経験や研究成果、教育への還元についてお話しいたします。基本的に日本語教育学や日本語学の枠組みにはなりますが、日本語非母語話者の作文研究は、従来から、日本語母語話者の作成した文章への研究や、日本語の文章自体の研究に対しても示唆的であり、興味深い話題や知見を提供しています。今後の大いなるポテンシャルが感じられるライティング教育の研究領域であると言えます。

本協議会は、協議会名称に「専門」という表現を使用していますが、特定目的のための日本語教育、すなわち専門日本語教育を語ることは、専門分野や職場の違いを超え、多様な背景の人と人との関係性や協働、コミュニケーションにも言及することになります。多くの変化が求められる現代、その変化を捉え、言語教育・学習支援のあり方を再考して教育・支援の場に還元していくことを目指し、広く関連の議論を展開したいと思います。分野を問わず、関心をお持ちの方々に多数お越しいただき、積極的に議論へのご参加をいただきたいと思います。

お申し込みフォーム：<https://forms.office.com/r/dhCyeMYrcP>